

# リトアニア政治・経済月間情勢(11月)

## 概況

●EU議長国リトアニアの最重要行事であるEU東方パートナーシップ首脳会合がビリニウスにて開催。最大の焦点とされたEU・ウクライナ連合協定への署名は実現しなかったものの、EUはモルドバ及びグルジアと連合協定に仮署名、アゼルバイジャンと査証簡素化措置協定に署名。リトアニアも議長国としてこれを成果と評価。

●ASEM外相会合(於:インド)の際、岸田外務大臣とリンケビチュウス外相による現政権初の日リトアニア外相会談が実現。

●グリボウスカイト大統領はコモロフスキ・ポーランド大統領が直接電話にてポーランド独立記念式典の出席及び大統領会談を招請したことを受け、昨年欠席した同式典に今年は出席。今回の訪問がリトアニア・ポーランド関係の改善に繋がるか今後の動向が注目される。

## 内政

【5日】統計局は、今年1月～9月の間に約3万2,000人が国外移民したとの統計を発表。当国の移民率は18%と世界平均(3%)を大きく上回っている。

【7日】国会は、ビリニウス空港、カウナス空港、パラング空港の合併法案を可決。

【7日】国会は、検事総長の提出した年次報告が国会で承認されなければ、国会が検事総長を解任することが出来るとの改正法案を性急に可決。グリボウスカイト大統領は、これは党内に有罪議員を有する労働党の先導の元に決定されたものであり、同改正法案に対し大統領拒否権を行使すると批判。

【8日】特別捜査局は、バルトニュース通信編集長及びヤネリウナス・ビリニウス大学教授に対し、グリボウスカイト大統領への情報攻撃が行われる可能性等に関する同局報告書内容の入手先について取調べを実施。12日、グロウジニエネ国会議長はバリース検事総長に対し、現行法ではジャーナリストの権利が適切に保護されていないとし、改善を要請。19日、国会は、グリナ特別捜査局長及びバリース検事総長を召喚し、今回の機密情報漏洩事件について説明を要請。

【8日】ビリニウス裁判所は、昨年総選挙で労働党が囚人を買収したとして、同党に対し2万6,000リタスの罰金判決。

【11日】次期大統領選挙に向けた選挙活動が公式に開始。

【23日】11月の支持率調査で、グリボウスカイト大統領の高支持率はグロウジニエネ国会議長による頻繁な批判にも影響を受けず、同大統領の支持率首位は不動。プトケビチュウス首相が大統領に次いで支持される政治家である状況にも変化無し。政党支持率については、社会民主党の首位に変化は無し。労働党に対する支持は減少が続き、ついに総選挙直後の支持率の半分以下となった。

【25日】次期欧州議会選挙に向けた選挙活動が公式に開始。

【26日】国会は、新たに政党登録を行う際の最低党員数を2,000人と規定する法律を議決。

## 外交

【2日～9日】NATO国際軍事演習Steadfast Jazz 2013がバルト3国及びポーランドで実施。6日、グリボウスカイト大統領はベルズインシュ・ラトビア大統領、イルヴィス・エストニア大統領及びラスムセンNATO事務総長と共にラトビアのアダージ訓練場での同演習を視察。7日、プトケビチュウス首相及びオレカス国防相はポーランドでの演習を視察。

【6～7日】ウスパシヴィリ・グルジア国会議長が来訪。6日、国会欧州クラブは10月27日に実施されたグルジア大統領選挙の評価に関する討論会を開催し、ウスパシヴィリ議長が基調講演を実施。7日には、グリボウスカイト大統領と会談し、欧州統合に向けたグルジアの課題、ビリニウスでのEU東方パートナーシップ首脳会合等について協議した。

【11日】グリボウスカイト大統領は、コモロフスキ・ポーランド大統領の招待によりポーランド独立記念式典へ出席し、コモロフスキ大統領と会談。両国関係、EU東方パートナーシップ、共同防衛演習、エネルギー等について協議。

【11日～12日】リンケビチュウス外相はインドを訪問し、ASEM外相会合へ出席。NB8・日本外相級会合では、日本のEU東方パートナーシップへの関与に謝意を示した。（日・リトアニア外相会談については「日本との関係」参照）

【12日】グリボウスカイト大統領は、オランド仏大統領の招待により仏を訪問し、若年失業問題に関するハイレベル会合へ出席。

【13日】政府閣議で、フィリピンにおける台風被災者に対し、政府の予備基金から17万2,000リタス（約5万ユーロ）の人道支援を実施することが決定。

【13～14日】オレカス国防相はモルドバを訪問し、マリスタ国防相と会談。地域安全保障、軍改革の進展、多国籍軍業務及び二国間防衛協力等について協議した。

【16～18日】潘基文国連事務総長はリトアニアを初めて訪問し、グリボウスカイト大統領、プトケビチュウス首相及びリンケビチュウス外相と各々会談。リトアニアの国連安保理非常任理事国、ビリニウスでの東方パートナーシップ首脳会合、安全保障問題等について協議した。17日、ピタウタス・マグナス大学は同事務総長へ名誉博士号を授与。

【17日】グリボウスカイト大統領は、EUを代表してマルグヴェラシヴィリ新グルジア大統領就任式出席のためグルジアを訪問。マルグヴェラシヴィリ大統領及びイヴァニシヴィリ首相と各々会談し、ビリニウスでのEU東方パートナーシップ首脳会合、グルジアの実施する改革及び欧州統合に向けた進捗状況等について協議した。

【21日】リンケビチュウス外相は、ウクライナによる連合協定締結準備プロセスの一時停止決定を受け、同決定には失望したものの、これで全てが終わりではなく、ヤヌコーヴィチ・ウクライナ大統領はウクライナ国民の期待に応え、遅延なく機会を活かすべき旨の声明を発出。22日、ネプシュリエネ大統領補佐官は、グリボウスカイト大統領とヤヌコーヴィチ・ウクライナ大統領が電話会談を行った際、ヤヌコーヴィチ大統領がロシアからの経済的圧力と脅迫によりウクライナが連合協定へ署名できない旨述べたと発言。

【26日】プトケビチュウス首相はルーマニアを訪問し、第2回中欧・中国首脳会合及び中国・中東欧ビジネス・フォーラムへ出席。また、李中国首相と二国間会談を行い、リトアニア乳製品の中国への輸出許可や上海におけるリトアニア・ビジネス代表事務所の設立等に関し協議。

【26日】グロウジエネ国会議長は大統領府、首相府及び外務省との事前調整無く英国出張をキャンセルし、キルキラス国会副議長及びアウシュレビチュウス副議長と共にウクライナを急遽訪問し、野党の抗議集会へ参加。27日、在ウクライナ・リトアニア大使館員がウクライナ外務省に召喚され、グロウジエネ議長他の野党の抗議集会参加に関し説明を求められた。

【28～29日】ビリニウスでEU東方パートナーシップ首脳会合が開催。28日にはサイドイベントとして市民社会フォーラム及びビジネス・フォーラムが開催。市民社会フォーラムにはグリボウスカイト大統領、リンケビチュウス外相、フューレ拡大・欧州近隣政策担当欧州委員、コックス前欧州議会議長の他、ポーランド、スウェーデン、モルドバ、グルジア外相等が出席（我が国から六鹿茂夫静岡県立大学大学院教授が参加）。ビジネス・フォーラムにはプトケビチュウス首相、フューレ欧州委員、東方パートナー6カ国の経済大臣他が出席。29日の首脳会合では、最大の焦点とされたEU・ウクライナ連合協定への署名は実現しなかったものの、EUはモルドバ及びグルジアと連合協定に仮署名、アゼルバイジャンとの査証簡素化措置協定に署名。グリボウスカイト大統領は、ウクライナの連合協定署名を行わない決定について、ロシアの圧力は言い訳にならない、EUはウクライナ首脳と取引するつもりはなく、リガ首脳会合までに署名が決定されることを期待すると発言。

【30日】リンケビチュウス外相は、ウクライナによるEU・ウクライナ連合協定署名プロセス一時停止閣議決定後の市民の抗議活動に対するウクライナ政府の武力行使を懸念する声明を発出。

## 経 済

【6日】統計局は、2012年の一般家庭の支出総額が720億リタス、収入が600億リタス、貯蓄が20億リタスと発表し、支出（貯蓄含む）と収入の差額分140億リタス（当国GDPの13%）が闇経済に当たると発表。マチューリスSwedbank主任エコノミストは、これは保守的な算出で、非公表収入は少なくとも70億リタスあり、密輸等による収益は70億リタスより更に多い予測とコメント。

【8日】プトケビチュウス首相は、ラトビアで開催されたバルト3国首相会合に出席。地域プロジェクトが進むエネルギー及び鉄道分野について議論が行われ、3国首相は政府間電力分野戦略委員会の設置を提案した他、Rail Baltica計画の継続を確認した。

【12日】グリボウスカイト大統領は仏で開催されたOECD理事会に出席し、リトアニアのOECD新規加盟に向けた準備について説明した。

【18～20日】グスタス経済大臣は、経済関係の強化、投資誘致、観光促進を目的とし、イスラエルを実務訪問。

【21日】欧州議会は2014～20年EU多年度財政予算を承認し、同予算に占めるリトアニア向けEU基金は68億ユーロと決定。

## エネルギー(含むビサギナス原発プロジェクト)

【4～5日】ビリニュスにてASEM第2回原子力安全セミナーが開催され、グリボウスカイト大統領、エッティンガー欧州委員(エネルギー担当)、フローリーIAEA事務次長他、20ヶ国以上の代表等約80名が参加。日本からは、藤原経済産業省資源エネルギー庁長官官房エネルギー交渉官及び青木原子力規制委員会原子力規制庁国際課長がプレゼンテーションを行い、市川ウィーン代表部公使がモデレーターを務めた。

【12～15日】ネベロビッチ・エネルギー大臣は訪米し、リトアニア・エナジー社代表及びリト・ガス社代表と共に米国のLNG企業代表らと会談。米国からクライパダLNGターミナル向けガスを輸入する可能性に言及。

【14日】ブトケビチュウス首相は国会の質疑応答で、バルト3国の専門家からなる委員会を設立し、同委員会が来年2月のバルト3国首相会合までに新原発の建設に関する分析結果を提出すると発言。

【19日】欧州委員会は、リトアニアのLNGターミナル建設計画が適切に実施されていると公式に認定。これにより、最大8,700万ユーロの融資を欧州投資銀行から受けることが可能となった。

## 日本との関係

【11日】ASEM外相会合出席のため訪問したインドにて、岸田外務大臣とリンケビチュウス外相は日リトアニア外相会談を実施。両大臣はビサギナス原発建設計画について意見交換し、岸田大臣は、リンケビチュウス外相の訪日を招請した。

【18～19日】在リトアニア日本大使館はビリニュス及びマリヤンポレにて桂裕子裏千家教授による茶道デモンストレーションを実施。リトアニア政府関係者、国会議員、市民等両日合計で250人以上が参加。

【20日】白石大使は、ビリニュスに本部を置く欧州男女平等庁にて、女性関連施策に関する日本の国際的な取組に関するプレゼンテーションを実施。ラングバック同庁長官及び同庁職員、外務省、外交団、ビリニュス市、大学、リトアニアのNGO代表等約40人が出席し、講演後には聴衆との活発なディスカッションも行われた。

【26日】白石大使は、リトアニア米国商工会議所の主催する女性のリーダーシップと起業に関するフォーラムの駐リトアニア女性大使によるパネル討論会にパネリストとして出席し、女性関連施策における日本の国際的な取組について具体例を交え発表。同会議にはリトアニアのビジネス界や学界出身女性約100名が熱心に参加。

【29日】在リトアニア日本大使館は国際交流基金及び当国映画館と共催で第13回日本映画祭(29日～12月5日)の開会式を実施し、白石大使が挨拶を行った。

この資料は、リトアニアの政治・経済情勢を中心に各種報道、発表をとりまとめたものですので、記載事項の信憑性まで確認したものではありません。

記載事項は在リトアニア日本大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。